

主催 日本大学理工学部（東京都千代田区・千葉県船橋市）・日本大学生産工学部（千葉県習志野市）・日本大学工学部（福島県郡山市）・日本大学短期大学部（千葉県船橋市）

第69回 日本大学全国高等学校建築設計競技

すまいとまちのていあん

COVID-19以後

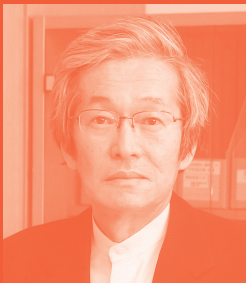
住むかたち

集まると

日本大学全国高等学校・建築設計競技審査会
審査員長 布野修司

■視点

家族のあり方は多様化し、流動化しつつあります。核家族を想定したnLDK住宅は、その多様化の流れに対応していません。最新の国勢調査（2015年）によれば、夫婦のみが1,072万世帯（20.1%）、単独世帯が1,842万世帯（34.5%）にのぼります。夫婦と子どもという本来の核家族は1,429万世帯（26.8%）にすぎません、片親と子ども世帯が475万世帯（8.9%）あります。一方で1,000万戸もの空き家が出現しています。Covid-19を契機としなくても、新たに集まって住むかたちが必要とされる切実な背景があります。多世代が、多様な家族が集まって住む、そういう集住モデルを期待したいと思います。



布野修司（ふの・しゅうじ）
日本大学客員教授

1949年 島根県生まれ
1976年 東京大学大学院博士課程中退
1976年 東京大学助手
1978年 東洋大学講師・助教授
1991年 京都大学助教授
2005年 滋賀県立大学教授・環境科学部長・副学長
2015年 日本大学特任教授（生産工学部・建築工学科）
2020年 ～現在 日本大学客員教授

受賞

1991年 日本建築学会賞論文賞
「インドネシアにおける居住環境の変容とその整備手法に関する研究
—ハウジング計画論に関する方法的考察」（学位請求論文、東京大学、1987年）
2006年 日本都市計画学会論文賞
「近代世界システムと植民都市」
2013年 日本建築学会賞著作賞
「韓国近代都市景観の形成 —日本人移住漁村と鉄道町—」
2015年 日本建築学会賞著作賞
「グリッド都市—スペイン植民都市の起源、形成、変容、転生」

社会活動

日本建築学会名誉会員
2001～2003年 日本建築学会会誌建築雑誌編集委員長
2006～2010年 日本建学会建築計画委員会委員長
2011～2013年 日本建築学会副会長

著作

「戦後建築論ノート」、「スラムとウサギ小屋」、「住宅戦争」、
「住まいの夢と夢の住まい」、「裸の建築家—タウンアーキテクト論序説」、
「建築少年たちの夢」、「進撃の建築家たち」など

日本大学全国高等学校・建築設計競技委員会
委員長 北野幸樹

■ごあいさつ

日本大学では、建築系の学科がある4学部（理工学部、生産工学部、工学部、短期大学部）6学科の共通事業として、毎年、日本大学全国高等学校・建築設計競技を実施してまいりました。

本設計競技は、昭和28年に第1回全国工業高等学校設計競技として発足し、今年で第69回を迎えることができました。これもひとえに、ご参加いただいた高等学校、高等専門学校生徒の皆様並びにご指導いただいた先生方によるご努力の賜物であると考えております。心より感謝申し上げます。

また、日本大学といたしましても、本建築設計競技が高等学校における建築教育に微力ながらお役に立っているとするならば幸甚に存じます。

本設計競技の第50回までは工業高等学校の生徒の皆様を対象に実施してまいりました。この実績を基盤として第51回からは建築系生徒の育成という役割と同時に、専門分野を越えて広く暮らし・住まいに関心のある若い世代への参加を促すとともに、第60回からは高等専門学校に在籍する3年次生にも門戸を開き、建築・都市・まちづくりから暮らしづくりへと志向するより多くの皆様に参加を呼びかけております。

本年度は、若い方々らしいみずみずしい感受性と自発的な目標を抱いて、現在の暮らし・住まいを改めて見渡し、誰もが幸せになるような多様な家族によりコミュニティが紡がれ、未来に向けた「集まって住むかたち Covid-19以後」の提案を募集いたします。高等学校、高等専門学校の先生方におかれましては、意欲と熱意のある生徒の皆様がご参加、ご応募くださいますよう、ご指導の程宜しくお願い申し上げます。

日本大学 理工学部建築学科
理工学部海洋建築工学科
理工学部まちづくり工学科
生産工学部建築工学科（幹事校）
工学部建築学科
短期大学部建築・生活デザイン学科

連絡先 〒101-8308
東京都千代田区神田駿河台1-8-14
日本大学理工学部建築学科教室内
日本大学全国高等学校・建築設計競技会事務局
E-mail：cst.arch.nu.hs.competition@nihon-u.ac.jp FAX：03-3293-8253
担当：佐藤慎也・泉山颯威・井本佐保里・二瓶士門・大川碧望・道明裕毅

■テーマ

【集まって住むかたち　Covid-19以後】

■課題主旨

Covid-19は、私たちの住まい、街、都市、国土そして世界のあり方について、実に大きな課題を突きつけているように思われます。ウイルスは、われわれホモ・サピエンスの100万倍のスピードで進化するといいます。

疾病の世界史を振りかえっても、われわれとウイルスとの遺伝子レベルの戦いと共存は繰り返されていくと考えられます。

Covid-19以後、身近な居住環境はどう変わっていくのでしょうか。

第1に、在宅、オンラインによるコミュニケーションのウエイトは確実に大きくなっています。

新たに体を動かしたり、リラックスする空間が必要になるかもしれません。

第2に、家庭内感染に対して、住居内の分離と結合を見直す必要があります。

第3に、単身者、障害者、エッセンシャルワーカーなど、家族を超えて近隣、地域社会のサポートも必要になるでしょう……。

日本の限られた現実的条件を前提として、Covid-19以後の新しい「集まって住むかたち」を求めたいと思います。

■提出内容

居住者の構成、住居の形式は問わない。敷地の場所や大きさは自由だが、どういう環境にあるのか、周辺環境の説明は必須とする。

構造、階数などは自由とし、法規制についても、常識の範囲内でかまわない。居住者の構成、所要室なども各自の提案にしたがって、それぞれ設定すること。

下記の内容を、A1用紙1枚にまとめること。紙質・表現・仕上げは自由だがバネル化はしないこと。応募者の氏名などを提出図面に記入してはならない。

- 設計概要：設計および提案の主旨を600字程度にまとめる。提案内容にふさわしい作品タイトルをつけることが望ましい。
- 配置図兼1階平面図：配置図には周辺との関係、外構計画を表現する。縮尺1/50～1/100。
- その他の各階平面図：平面図には室名・寸法・家具などを記入する。室名などは、日本語表記のみでよい。縮尺1/50～1/100。
- 断面図：1面以上。縮尺1/50～1/100。
- 立面図：1面以上。縮尺1/50～1/100。
- 全体外観図：模型写真でも可。ただし、模型は受けつけない。
- その他：各自の提案内容を表現するために必要と思われる説明図、スケッチなどを描いて説明しても良い。

■応募資格

2022年4月現在、高等学校在籍の生徒、高等専門学校に在籍する3年次生までの生徒とする。応募は個人とする。

■応募案の取り扱い

- 応募作品は未発表の作品に限る。
- 本設計競技の応募作品の著作権は応募者に帰属するが、応募作品の発表に関する権利は主催者が保有する。
- 応募作品は原則として返却しない。ただし、応募用紙に返却希望の記載がある作品については返却を行う。その場合、返却時期は主催者の判断によることとし、返送先は、応募時の宛先とする。

■応募方法

- 応募フォームにアクセスし、必要事項を入力し送信。数分後、応募フォームに入力したメールアドレス宛に、入力した内容の確認メールが自動で送信される。内容確認メールを印刷したものを封筒に入れ、提出物と一緒に提出先へ郵送する。
- 応募フォーム　<https://forms.gle/7Wk2tENeWUeCLh4W6>
- 締切日　2022年8月31日（水）　当日消印有効
- 提出先　〒101-8308　東京都千代田区神田駿河台1-8-14
日本大学理工学部建築学科教室内
日本大学全国高等学校・建築設計競技会事務局
E-mail：cst.arch.nu.hs.competition@nihon-u.ac.jp　FAX：03-3293-8253

■審査員

審査員長	布野修司（日本大学客員教授）	
審査員	石田　　優（短期大学部生活・デザイン学科）	高橋岳志（工学部建築学科）
	川嶋　　勝（短期大学部生活・デザイン学科）	田所辰之助（理工学部建築学科）
	栗原伸治（生物資源科学部生物環境工学科）	長沼一洋（理工学部建築学科）
	小林直明（理工学部海洋建築工学科）	牟田聡子（理工学部まちづくり工学科）
	佐藤信治（理工学部海洋建築工学科）	山岸吉弘（工学部建築学科）
	篠崎健一（生産工学部建築工学科）	渡辺　　康（生産工学部建築工学科）

■賞

最優秀賞	1点	賞状、賞品（図書カード10万円）、副賞15万円
優秀賞	5点	賞状、賞品（図書カード各3万円）、副賞各5万円
佳作	5点程度	賞状、賞品（図書カード各2万円）
奨励賞	10点程度	賞状、賞品（図書カード各1万円）
		（賞状、賞品は応募者本人に、副賞は奨励金として応募者が在籍する学校に贈呈する。なお、優秀賞以上6点については、公開発表会参加のため、本人と引率教員の交通費を支給する。）

■審査

- 第1次審査は、審査会を開催し、優秀賞6点、佳作5点程度、奨励賞10点程度を選出する。
- 第2次審査は、公開による発表会を開催する。第1次審査で選出された優秀賞6点の応募者による発表を行い、最優秀賞1点を選出する。発表を行う優秀賞受賞者には2022年9月24日（土）までに第1次審査結果を通知する予定。

■公開発表会

日時：2022年10月15日（土）　公開発表会は12時00分から
場所：日本大学理工学部駿河台キャンパス　東京都千代田区神田駿河台 1-8-14

■発表

- 審査結果は、応募者の在籍する学校に直接通知する。電話などによる問い合わせには一切応じない。
- また、入賞作品をホームページに掲載するとともに、作品集を応募者の在籍する学校に郵送する。<https://www.facebook.com/nu.hs.competition>

■日本大学全国高等学校・建築設計競技委員会

委員長	北野幸樹（生産工学部建築工学科）	
委員	泉山豊威（理工学部建築学科）	道明裕毅（理工学部建築学科）
	井本佐保里（理工学部建築学科）	長沼一洋（理工学部建築学科）
	大川碧望（理工学部建築学科）	二瓶士門（理工学部建築学科）
	栗原伸治（生物資源科学部生物環境工学科）	宮崎　　渉（工学部建築学科）
	佐藤慎也（理工学部建築学科）	牟田聡子（理工学部まちづくり工学科）
	鈴木諒一（短期大学部生活・デザイン学科）	矢代眞己（短期大学部生活・デザイン学科）
	田所辰之助（理工学部建築学科）	山本和清（理工学部海洋建築工学科）
幹事校	生産工学部建築工学科	